

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2874100502		
法人名	社会福祉法人 大和福祉会		
事業所名	グループホーム まほろばの里		
所在地	兵庫県揖保郡太子町塚森125-1		
自己評価作成日	平成22年5月1日	評価結果市町村受理日	平成22年6月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-hyogo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2874100502&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	兵庫県姫路市安田三丁目一番地 姫路市自治福祉会館6階		
訪問調査日	平成22年6月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・住宅地の中にあり、一軒の家の「住人」として地域の方々との交流を大切に地域の老人会の方々にも交流を楽しんでいただいている。また交流を通してグループホームの「住人」を理解していただける機会を創り、安心して仲良く笑顔で過ごせる施設を目指して職員が心を一つにして利用者様を支援している。

・家族様が訪問のたびに「母の表情が明るくなりました。元気になって良かったです。」と話され、日頃の支援に対する感謝の気持ちを聞かせていただいている。

・かかりつけ医との連携を密にして、利用者様の健康管理に努め、病気の早期発見と早期治療ができている。

・家族様にケアカンファレンスに参加していただき、利用者様の支援について共に話し合う機会を設けている。また、その時間を通じて家族様の思いを受け止め支援に活かす努力をしている。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

併設事業所として特別養護老人ホーム・2つのデイサービス・居宅介護支援センターがあり、特別養護老人ホームとの連携や、デイサービス事業所との交流、研修面などで利点がある。法人の理念やホームの目標に挙げている「笑顔」を、利用者にも職員にもたくさん見ることができた。今は、利用者が女性ばかりの和やかなホームである。地域ボランティアの活動が活発で、外出介助・おやつ作り・喫茶・書道の指導や月ごとの絵手紙など、多岐にわたり支援を受けている。楽しんで活動しておられるという印象を受けた。敷地内の菜園で、いちごやなすび、さつまいもなどを育てている。収穫も楽しみだが、地域の方からの助言、そこから広がる交流に期待できる。中庭では色とりどりの花が咲き、のどかな景色と共にゆったりとした時間が流れる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 む の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目		取 り 組 む の 成 果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および第三者評価結果

(セル内の改行は、(Alt+Enter) です。)

自己 者 第	三	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「仲良く笑顔で歩こうよ」の理念を大切に、地域の方や支えて下さっている方々と共に同じ地域で暮らす一人の人として心安らかな日々を過ごしていただける様に、と願いながら日々の支援をしている。	法人全体の「仲良く笑顔で歩こうよ」という理念に沿って、ホーム独自の年間目標「みんなで築こう笑顔の輪」を立てている。目標は職員全員のアンケートに基づいて決めている。7つの具体的な項目を挙げて実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流はないが保育所、小学校、地域の芸能発表会などに招待され楽しいひと時を過ごされることもある。	老人会の方を招待してミニ運動会を催したり、3カ月に1回介護教室を開くなど、併設施設と協働で地域に貢献している。また保育所や小学校の行事に招待されたり、地域ボランティアの受け入れなどの交流がある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特養での介護予防教室では地域の方への情報発信はしているが、グループホーム独自の地域貢献はできていない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族にも参加していただき、思いや意見を支援に活かしている。また、グループホームの生活の様子や行事の報告をして、出席者からも意見を聴取してサービスの向上に活かす努力をしている。	2か月に1回開催している。利用者とその家族・太子町職員・元民生委員などの参加を得て、状況報告や災害時の対応などを話し合っている。	自治会や老人会の会員など、地域の方の参加も促して、より幅広い意見を聴取し、運営に活かしてほしい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の担当者が運営推進会議の委員として出席し保険者として意見や助言を頂いている。	運営推進会議に町の職員に参加してもらっている。状況の報告をすると共に、情報の収集をしている。新型インフルエンザの対策を相談するなど、連絡を取り合っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の精神的、身体的影響については職員全員がよく理解しており、利用者を深く知ることに伴う支援に努めている。	身体拘束は行っていない。身体拘束についての法人のマニュアルがあり、それを基にした研修を行っている。玄関の施錠は夜間のみで、日中は開くとチャイムがなる方法で、リスクを回避している。		
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的虐待はもちろんのこと言葉の虐待についてもよく理解しており、自己を客観的に見つめたり、虐待を見逃さないよう職員同士が注意し合っている。	虐待防止法に関する研修を行っている。言葉がけにも職員間で注意を払い、気になる時はその場で指摘するよう指導している。職員のストレスに配慮し、余裕のある人員配置をしている。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見制度を利用している利用者様がおられ、支援の過程を見守ってきた。その経験を今後に活かしたい。	後見人が必要だと思われる利用者に、成年後見制度の活用につなげた事例がある。この1年間には権利擁護に関する研修は行っていない。	他の研修も含め、内部研修や外部研修に参加時は、グループホームとしての研修記録を資料と共に整備し、ホーム内でいつでも活用できるようにしてほしい。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の折には重要事項説明書や契約書を基に説明している。また利用者様、家族様の思いを傾聴するように努めている。解約時も家族と利用者のための支援に努めている。	契約時はケアマネジャーが同行し、本人と家族に対し重要事項説明書・契約書について、確認を取りながら丁寧に説明している。契約時に、グループホームでの対応が困難になった時に備えて同法人の特別養護老人ホームの説明を行い、納得を図っている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の思いや家族の意見が多く聞けるように職員一人一人が意識して接している。利用者や家族の意見、要望を職員全員が共有し運営に活かしている。年一回第三者委員による意見の聴取も実施している。	運営推進会議に利用者とその家族に参加してもらっている。当番制にして全員が参加できるようにしている。また、年1回家族会を開き、和やかな場で意見を出しやすようにしている。第三者委員による意見要望の聴き取りも年1回行っている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスでの意見交換や、随時の提案を利用者支援や運営に活かしている。	毎日のカンファレンスで意見や提案を聴いている。管理者と職員間のコミュニケーションは良好で、日常的な関わりの中での気づきやアイデアをその都度聴き、対応している。	運営に関する事項は、法人で委員会を持ち、話し合っている。グループホーム内でも運営や大事な決定事項を定期的に話し合う場を設け、サービス向上に活かしてほしい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は日々現場に足を運び、職員の勤務状況や職場環境の把握に努めている。定期昇給、賞与支給に際し、評価を反映することにより、職員へのフィードバックを行い、士気の向上に繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外研修へ参加を促し、外部研修では内容を報告し全職員で知識の共有化を図っている。内部研修として、毎月一回認知症の勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在、同業者との交流は行っていない。今後、他の事業所との交流を検討し、見学の場を設けていけるように検討している。		

自己 第3者	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、家族やケアマネ・利用施設から情報収集を行うと共に、面接を行い本人の思いや要望等の把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が抱えている現在の悩みや不安などを、受容・傾聴しながら関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネからの情報収集や本人・家族への面接で本人の状態把握をしている。また、本人・家族との話し合いでグループホームが本人に適正なサービスを提供できるか見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者と共に生活するという意識を持ち一緒に家事や外出・レクリエーション等を行い暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族と十分な信頼関係を築くため毎月の手紙や、ケアカンファレンスなどへの参加を促し、日常生活において報告・連絡・相談を行い、共に本人を支えている。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	デイサービスを利用している方が訪ねてきてお茶を飲みながら楽しい会話をされることも多い。近隣の方や友人の訪問はいつでも歓迎しており、居室でゆっくり談笑していただけよう支援している。	利用者は地元の方が多く、ホームに出入りされる方とも馴染みがあり、会話を楽しんでいる。併設のデイサービス事業所の利用者との交流や、買い物の際の近隣の方との立ち話など、馴染みの人とのつながりを大事にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人の性格や利用者同士の関係を把握し、席を決めたり、共に楽しめるようなレクリエーションを行う等工夫している。トラブルが発生した時には、職員が間に入る等素早く対応し良好な関係作りに努めている。		

自己	者	第三	項 目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、退所先へ面会に行き、現状報告を受けたり心配ごとの相談に乗るなどし、退所と同時に本人・家族との関係が途切れないように注意している。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中から、本人の希望や意向を把握し施設内で出来ることや家族協力を得ながら実行に取り組んでいる。	職員は利用者一人を担当し、日々の会話や行動から、思いの把握に努めている。7枚の「ケアチェック表」で細かな項目を挙げ、できることや問題点、訴えや希望を確認し、介護計画に活かしている。アセスメントは半年に1回取り直している。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時に、生活歴やサービスの利用経過を把握し職員間で情報を共有している。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の中で、個々のペースに沿いながらできることと出来ないことを見極めつつ、見守りながら待つ介護をしている。また、体調に異常がある場合、随時看護師等と相談し対応すると共に、申し送り時に報告している。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人より希望や意向を伺い、ケアカンファレンスには家族も参加いただき、職員と共に話し合い介護計画を作成している。	計画作成時はケアカンファレンスを開き、看護師や管理栄養士からも意見を聴いている。できるだけ家族が参加してもらえるように配慮している。毎月モニタリングを行い、3カ月毎に評価をして、半年に1回見直しをしている。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌や個人ケース記録へ日々の出来事や様子・発言・体調・バイタルサイン等を記録し、申し送りを行情報を共有している。それらの記録から介護計画の見直しを行っている。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービス(E型)と音楽療法を毎月二回一緒にし交流を行っている。また、特養の誕生会に参加し、日舞・大正琴等の芸能鑑賞を楽しんでいる。		

自己	第3者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の生活の質を高めるために消防署や、幼稚園、小学校、移動販売、歯科医、理美容院、移動図書館などの協力を得ながら支援している。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当事業所の協力医療機関の医師をかかりつけ医とする場合は、本人と家族の同意を得ている。他の病院受診時は、紹介状・看護師のサマリーを持って受診している。	眼科と皮膚科のかかりつけ医に通院しておられる方がいる。通院介助は通常は家族にお願いしているが、必要時は看護師が状況説明をするなどの対応をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、体調の変化等気づきを随時看護師へ伝え相談すると共に、看護師により健康管理や受診が出来るよう支援している。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時には、紹介状・サマリーを提供し、入院中も適宜面会して利用者の状態把握を行うと共に病院関係者からの情報も得られるように努めている。また、入院中も家族との連絡を密にしている。	入院時は協力医の紹介状を持参し、看護師とケアマネジャーが情報提供をしている。職員や、時には利用者も見舞いに行くなど、混乱がないよう支援している。家族とも連絡を密にし、早期退院に向けての情報交換や相談に応じている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時より、重度化した場合や終末期の在り方について話し合う場を設けている。また、その時の段階に応じて出来る限りの支援を行っている。	本人・家族の希望に沿って、看取りの支援をした事例を持つ。契約時に「重度化に関する指針」を重要事項に挙げて説明している。医師・看護師・家族の協力体制などを考慮して、できることを見極め支援する。職員はターミナルケアについての研修を受けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルがある。また研修の機会があれば積極的に参加している。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を年二回実施し、訓練の際には昼・夜の想定を行っている。災害時に利用者が避難できる方法を全職員が身につける事が出来るよう努めている。また、地域の方への連絡網もあり協力体制を築いている。	年2回、夜間も想定して消防訓練を実施している。自治会総会にて避難時の協力を要請しており、緊急時の連絡体制が整っている。施設はIH対応で各居室から外に避難でき、スプリンクラーも設置している。夜間は同施設内に宿直を配置している。	

自己 者第3	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に、人生の先輩として敬う気持ちを忘れず、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を行っている。また、個人情報や守秘義務の徹底を行っている。	職員は利用者を敬っており、言葉かけや対応に気を配っている。あからさまな援助は慎み、本人のペースに合わせて見守る支援を心がけている。利用者の情報流出にはボランティアの方とも誓約書を交わすなど、注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、利用者と信頼関係づくりを行い受容・傾聴を行いながら思いを表出しやすい雰囲気づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人の思いを大切にして、これまでの生活に近づけるよう利用者本位のサービスを職員全員が心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴前の準備時に希望を聞きながら一緒に行う。また、四季に合った服装が着れるようにアドバイスしている。散髪については、毎月一回出張理容があり、自身で希望のカットをしてもらっている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食事の盛り付けや配膳、食後の下膳や洗い物などその人の出来ることを職員が一緒に行っている。また、昼食づくりでは食べたいものを取り入れながら一緒に行っている。	月2回昼食づくりの日を設け、リクエストに応じてメニューを決め、食材の買い出しや包丁を使っのカットや調理など、職員と共に作り食することを楽しんでいる。また、菜園での収穫物を食卓に乗せたり、ボランティアの方とおやつ作りも楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの摂取カロリーや水分などを把握している。また、糖尿病の方の摂取量を記入して統一した対応に努めている。10時や入浴後、おやつ時などに水分補給に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを促し、見守っている。また、外出から戻った時には含嗽を行っている。就寝時には、義歯を洗浄液につけ、清潔を確保している。		

自己	第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握しており、プライバシーに配慮しつつその方に合った排泄支援を行っている。	現在、おむつを使用されている方はいない。ほぼ全員が自分でトイレに行かれる。失敗された時や排便が分かった時、夜間のトイレ利用は記録している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日定時に排便確認をしている。レクリエーションや体操を行い自然排便を促している。また、水分補給や献立の工夫を行い予防に取り組んでいる。排便が見られないときは、看護師に相談し対応している。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	隔日に入浴して頂いているが、毎日希望がある方は入浴して頂いたり、体調などにより柔軟に対応している。	2日に1回、午後2時から入浴支援している。希望により毎日の入浴にも応じられる。浴槽は広く、気の合う方同士での入浴も可能である。一人ひとりのペースに合わせて、職員との会話も楽しみながら、ゆっくり入ってもらえるよう心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、希望時の休息や昼寝をしていただいている。夜間帯は、夕食後にテレビを見たり居室にて話をするなどその時の状況に応じて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人別の服薬ファイルがあり、服薬の目的や副作用、用法・用量について理解するとともに、新しく処方された薬については看護師より毎回説明がある。誤薬や飲み忘れがないよう工夫している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理や後片付け掃除等ご家庭で生活していたころの役割を継続していただいている。また、習字・ドッグセラピー・音楽療法などのクラブ活動、まほろば喫茶などにも参加し楽しんでいただけるように支援している。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月、外食やドライブ・散歩などボランティアの協力を得て出かける機会を設けるとともに、家族の協力を得て外食や外出できるように支援している。	近くの神社までの散歩コースがあり、時には掃除をしたりして回る。ボランティアの協力を得て、買い物やカラオケに出掛けたり、月1回は外食し、花見や紅葉狩りへと、ドライブも楽しんでいる。施設内の中庭・テラス・菜園も広いので、戸外で気持ち良く過ごすことができる。	

自己	第3者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の方は、ご自身でお金を持っておられ移動販売などで買いものされている。また、他の方は好物を購入することで買い物をする喜びを味わっていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人でレターセットを持っておられる方もあり、必要に応じて手紙のやり取りをされている。また、全員の方にお年賀や暑中見舞いの手紙を書いていただき家族との交流を図っている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季を感じていただけるように利用者様と壁画を作成したり、テラスにはその時々のお花を植え、季節を感じていただけるよう努めている。	リビングは明るく、はき出し窓から庭へとでることができる。2面の窓から心地よい風が通る。ソファを置き、寛げるスペースを設けている。生け花や共同の作品など季節感のあるものや、習字や思い出の写真などが飾られていた。オープンキッチンで、作業をしながら様子が見わたせる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のソファやテーブル・観葉植物を利用して模様替えを行い、気のあう利用者同士がゆっくり会話しながら過ごせる雰囲気づくりをしている。また、食堂のテーブルには、自分の居場所が分かるよう名前をもうけ安心していただけるよう工夫している。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、テレビや家族の写真・布団など使い慣れたものを持ち込み使用して頂き、本人が居心地よく過ごしていただけるよう努めている。	ベッド・洗面台・カーテン・整理ダンス・照明は備え付けになっている。テレビやタンスなどを持ち込んで、それぞれが落ち着ける空間にしている。屋外へ出れるはき出し窓で、明るい。壁のコルクボードに思い思いのものが飾ってあり、楽しい。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室入口には表札があり、トイレには分かりやすい表示を目線の高さにしたり、毎食のメニューを記入して楽しみにしていただいたりしている。		